



平成 29 年度 向山小学校区 第2回地域コミュニティ連絡会のまとめ



11月16日（木）に開催された「平成29年度向山小学校区第2回地域コミュニティ連絡会」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。当日の発言や意見をまとめた資料ができましたので、送付いたします。（三島市のホームページにも掲載しています）

■開催概要■

日 時	平成29年11月16日（木）19:00～20:45		
会 場	錦田公民館		
参加団体 (16名)	中島町内会 大場町内会 多呂自治会 北沢町内会 中郷地区自治会連合会	若葉保育園 大場幼稚園 向山小学校 中郷中学校 PTA スクールガード	子ども会連合会 交通安全指導員会 民生委員・児童委員 夏梅木幸生会 三島市社会福祉協議会

■次第■

開会・市長あいさつ

- 1 「地域コミュニティ連絡会について」
- 2 「地域の取組み事例紹介」
- 3 「地域の情報を共有しよう」
- 4 「計画案で実践できることを考えよう！」
- 5 「アンケート記入」



「地域の情報を共有しよう」のまとめ

今回の「地域の情報共有」では、小学校区の年間スケジュール表や各団体から出された情報を参考にしながら、各団体間の情報を共有しました。

○「小学校区の年間スケジュール表」について

同じ小学校区内で活動する団体の行事や活動の予定等を各団体と共有し、日程調整等のために活用していただくことを目的に、本年度から小学校区内の団体等の年間スケジュール表を作成しています。第2回連絡会では、第1回連絡会後にいただいた予定等も追加して、参加者に配布しています。

■主な情報共有の内容

団体	情報の概要
中島町内会	<ul style="list-style-type: none"> 左内神社の豆まき復活に向けて関係者と調整しています。1/28に開催予定です。
大場町内会	<ul style="list-style-type: none"> 色々なイベントを開催し、地域住民のコミュニケーションを図っています。
多呂自治会	<ul style="list-style-type: none"> 15年以上、通学時のパトロールをしていますが、6年生が卒業前にお礼の手紙をくれるのがとてもうれしいです。 高齢者は老人会に、子どもは子ども会に参加してほしいです。
北沢町内会	<ul style="list-style-type: none"> 30世帯の小さな町内会です。 アパートに住む住民とのコミュニケーションが課題となっています。
若葉保育園	<ul style="list-style-type: none"> 函南町との境にあるため、両市町から子どもが通っています。 大場の老人会と連携したいと考え、保育園の催しに招待しています。
大場幼稚園	<ul style="list-style-type: none"> 再来年で創立50周年を迎える歴史ある幼稚園です。児童数が減少していますが、来年度から3才児の受け入れが始まるので、なんとか50周年を迎えることができそうです。 地域の協力で畑を貸していただき、11/1にさつまいも45kgを収穫することができました。 三島南高校と連携させていただいています。
交通安全指導員会	<ul style="list-style-type: none"> 東駿河湾環状線の開通後、危険になった箇所があります。時間帯規制を遵守しない人がいるので指導する人が必要ですが、人手不足の状況です。誰かに協力してほしいです。 地域で、盆踊り大会やバザーをやってコミュニケーションを図ったらよいと考えています。
民生委員・児童委員	<ul style="list-style-type: none"> 孤独死に立ち会う経験をしたことがあります。 “児童委員”としての役割もあるので、子どものためにもがんばりたいです。
夏梅木幸生会	<ul style="list-style-type: none"> 市の老人クラブ連合会と錦田地区の老人連合会に加盟しています。連合会から脱退する老人会があります。 役員の担い手が不足しています。

団体	情報の概要
三島市 社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・三島市から受託し、「生活支援コーディネーター」の役割を担っています。 ・高齢者のサロン等の“居場所”づくりに力を入れています。 ・地域の困りごとの相談も受け付けますので、お気軽にご相談ください。
三島市 子ども会連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会が減少しています。 ・同じ町内会の子ども同士で名前を知らない子がいるような状況です。 ・大人ではなく、子どもの自主性を大切にした子ども会を作っていただきたいと考えています。



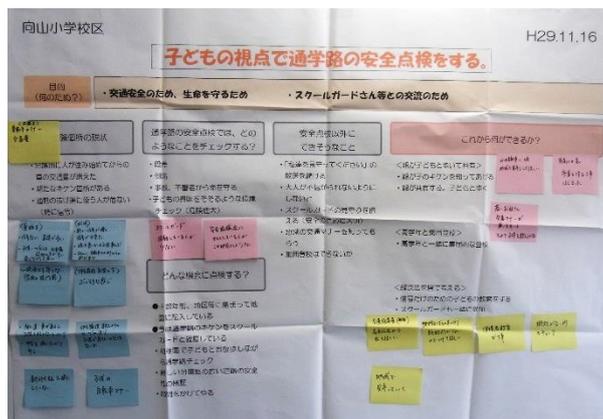
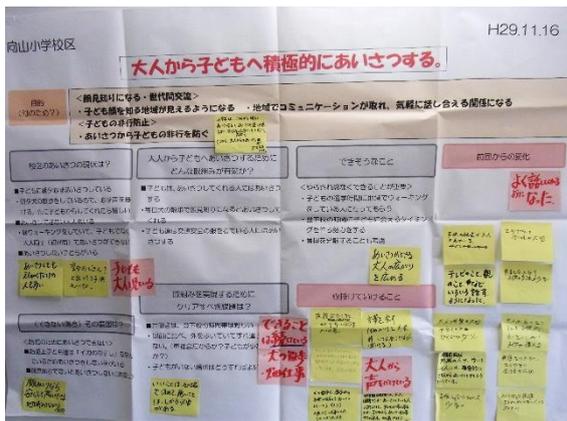
「計画案で実践できることを考えよう！」のまとめ

■旗揚げアンケートの結果

「きずながつくる協働の取組み計画案」に掲載されている取組みのうち、昨年度第2回連絡会で投票数の多かった取組みの中から、参加者自身が話し合いたいテーマを旗揚げアンケート方式で把握しました。

	大人から子どもへ積極的にあいさつする。	6
	防災訓練で中学生に役割を与え、主体的に参加してもらう。	4
	子どもの視点で通学路の安全点検をする。	7

その後、選択したテーマごとにグループを作り、第1回連絡会の意見を踏まえて、グループ別に意見交換を行いました。各グループの意見のまとめは、次ページ以降に整理します。



大人から子どもへ積極的にあいさつする。

目的

- <顔見知りになる・世代間交流>
 - ・子ども顔を知る地域が見えるようになる
 - ・地域でコミュニケーションが取れ、気軽に話し合える関係になる
- <子どもの非行防止>
 - ・あいさつから子どもの非行を防ぐ

校区のあいさつの現状は？

- 子どもに朝夕必ずあいさつしている
 - ・朝夕犬の散歩をしているので、必ず声を掛ける。先に子どもからしてくれたら嬉しい
 - ・あいさつしても会釈だけの人も多い
- あいさつできない大人もいる
 - ・朝ウォーキングをしていて、子どもでなく大人同士（初対面）であいさつができない
 - ・子どもも大人を見ている
- 不審者と勘違い
 - ・変なおじさん？と言ってる子どももいた

(できない場合) その要因は？

- <防犯のためにあいさつできない>
 - 子ども達は防犯上「イカのおすし」を学んでいるため、あいさつをしない子がいる
 - 顔見知りでないあいさつしない(防犯上)



顔みしりなら安心して声かけができる。
地域のつながりが大切

大人から子どもへ挨拶するために どんな取組みが有効か？

- 子どもは顔見知りには挨拶する
 - ・毎日犬の散歩で顔見知りになると挨拶してくれる
 - ・子ども達は交通安全の服を着ている人には挨拶する
- 登下校に合わせる、続ける
 - ・登校時間帯に家の前の掃除をして、声をかける。
 - ・さりげなく、何回でも声をかける。
- 住民同士の交流
 - ・挨拶だけでなくさりげない会話が必要
 - ・大人から子どもだけではなく、地域住民同士の顔の見える関係作り（交流の機会づくり）が日頃からできたらよい

取組みを実現する上での課題

- ・共働きは登下校の時間帯は難しい
- ・以前に比べ、歩いていてすれ違う人が少ない。（車社会だから？子どもが少ないから？）
- ・子どもがいない場所はどうすればよいか？

できそうなこと

- やらされ感なくできることが重要
 - ・子どもの通学時間に地域でウォーキングをしている人に取り組んでもらう
 - ・登下校の時間に子どもに会えるタイミングを作る努力をする
 - ・負担を分散することも考慮
- あいさつができる大人を広める

<大人の姿勢も大切。優しさだけではダメ>
その場で、良いことは褒めて、悪いことは叱る必要

心掛けていけること

- できることを続ける
 - ・畑仕事に挨拶している
 - ・犬の散歩で通学中の子どもに自分からあいさつしていたら、そのうち子どもからして来たので嬉しかった
 - ・言葉を交わす（畑にいと下校時、いろんな言葉が聞ける）
 - 大人から声をかける
 - ・保育園の園児は、大人（保育士）があいさつしている人に対して、子どもからあいさつする姿が見られる。
- =やはり大人があいさつすることが大切
- ・（保育園周辺の）地域の人や、歩いている人には極的にこちらからあいさつをするようにしている

前回からの変化

- ・よく話してくれるようになった
- ・子どもからの視点で大人のことを見ている
- ・さりげない会話から、会話からテレビのこと、親のことなどいろいろ話すようになった
- ・大人があいさつしても、子どもがあいさつしない。子どもが構える
- ・子どもと会うチャンスがまだ少ない
- ・知り合いにはあいさつするようになったが、知らない人にはダンマリ

防災訓練で中学生に役割を与え、主体的に参加してもらおう。

目的

- 防災に対する意識を高めてもらう ・ 防災の重要性を知る
- <働き手として> ・ もしものときの重要な働き手に、自助、共助、公助としての責任感をもってもらう
- <交流機会として> ・ 地域との交流の機会になる ・ 大人との交流、協力の経験となる

現状

- ・ 中郷中…中 1 が箱根の里で宿泊研修している
- ・ ジュニア防災士の資格を取得している

防災訓練で実践する上での課題

- ・ 使い方を地域の方が中学生に直接教えてほしい
- ・ 中学生には個人差がある

誰が、何をするか

中学校で

- **まず、参加者を増やす**
 - ・ 中学校で、地域の行事参加を教育評価としてもらい、参加するようにルールを引いてもらう
 - ・ 参加証明書を発行して、参加者は内申書に記載する。
 - ・ 無線を使って多呂と中学校を結びつける
- **ジュニア防災士発表会・中学生が企画**
 - ・ ジュニア防災士で身につけたことの発表会が地域の防災訓練
 - ・ 中学生に企画させる

中学生にはどんな役割が適切か？

地域の考え

- ・ 非常食の調理、配布
- ・ 防災クイズ
- ・ 防災〇×クイズ
- ・ 中学生が自ら説明
- ・ 会場のアナウンス
- ・ 会場の設営補助

保護者の考え

- ・ 小学生への声掛け
- ・ グループに分けていろいろな大変なことをさせてもらう。
(物資、人の運搬、消火など)

●大人が子ども扱いし過ぎている

- ・ 中学生はできる！
- ・ 中学生は体力的には大人以上の力がある
- ・ 大人が子ども扱いしているので、中学生の自主性が育っていない

●中学生を使い切れていない

- ・ 地域が使いきれていない
- ・ ジュニア防災士を地域が使いきれていない

【課題】
アイデアは出るが、誰がやるか？

学校の時間内でできないと難しい

まずは大人が信用する

PTA から
中学校へ提案してみる

町内会で

- ・ 町内会長
- ・ 中学生に役割を先に与える
- ・ 町内会で与える

中高生に任せない方がよいこと

- ・ ケガが心配
- ・ 使い方を知らないと危険
- ・ 中学生が責任をとれるか？
- ・ ボランティアによる環境作り

子どもたちの課題

- ・ そもそも同じ地域の子も同士のコミュニケーションがない
- ・ 地域内のたてのつながりが少ない

- ・ 子ども会のリーダーを育成
- ・ 小さなグループでくれば、子ども達の自覚が育ってくる

子どもの視点で通学路の安全点検をする。

目的 **・交通安全のため、生命を守るため** **・スクールガードさん等との交流のため**

危険箇所の現状

- ・新たなキケン箇所がある
- <自動車の問題>
 - ・運転手のマナー
 - ・分譲地に人が住み始めてからの車の交通量が増えた
 - ・通勤の抜け道に使う人が危険
 - ・(規制区間で) 通行許可証を提示しない
- <夏梅木>
 - ・信号ない、直線が多い。
 - ・つつじヶ丘、旧部落団地の子が多い。
- <北沢>
 - ・新しい住宅が増え、信号ができた。
 - ・急いでいる子どもが坂で転ぶ。
 - ・向山小近くの自動車屋の所からの飛び出し
- <伊豆箱根高架の下>
 - ・ぶっそうな感じ
 - ・伊豆箱根本社からのカーブの回り、子どもが危ない
- <子どものマナー>
 - ・中学生が横に広がり歩く
 - ・子どもの自転車マナー
 - ・細い道は子どもが1列でないと車が通れない
 - ・遊びながらで危ない。一時停止を守らない(学校の校門前)

点検項目

- ・段差
- ・側溝
- ・事故、不審者から命を守る
- ・子どもの興味をそそるような環境チェック (危険性大)

どんな機会に点検する？

- 十数年前、地区毎に集まって地図に記入している
- 今は通学路の危険をスクールガードと確認している
 - ・幼稚園で子どもとお散歩しながら通学路チェック
 - ・新しい分譲地の広い道路の安全性の検証
 - ・時間をかけてやる

地域の体制の課題

- ・スクールガード活動している人が少ない
- ・安全協議会に加入している人がこの地域には少ない

これから何ができるか？

- <親が子どもと歩いて共有>
 - ・親が子の危険を知ってあげる
 - ・親が共有する。子どもと歩く
 - ・街灯がない所のチェック
- <高学年と集団登校>
 - ・高学年と一緒に集団的な登校
 - ・集団登校はできないか
- <解決法を皆で考える>
 - ・信号だけのための子どもの教育をする
 - ・スクールガードも一緒に参加

安全点検以外にできそうなこと

- 地域での見守り
 - ・「私達を見守ってください」の放送を続ける
 - ・大人が不信がられないようにしないと
 - ・スクールガードの見守りを伝える (安全のために大切)
 - ・山田自動車～坂、地域で見守りしてほしい
 - ・交通指導員 (制服) 各自治会から出てほしい
- マナー指導・教育
 - ・地域の交通マナーを知ってもらう
 - ・若いお母さん交通マナーが悪い方もいる。それで子どもを教えられない
 - ・保護者教育が大事
- ハード整備
 - ・南高への道、歩道を作る工事はじまった
 - ・中郷中学近く桜の木の回り防犯灯がないのでつけてほしい